

ごあいさつ

1989年のベルリンの壁の崩壊に代表される世界秩序の変革の波は、近年、ますますその速度を増してきております。特に、ITの発展から来る情報伝達の速さとあいまって、人類が経験したことのない変革が、目まぐるしい速さで押し寄せては、過ぎ去っていくようになってきております。こうした変革の波の渦中であって、人はともすれば自分自身の足場を見失いがちですが、このような時代こそ、自らの足下を固め、じっくり行動することが重要であると自らを戒めております。

トビシマは、長年にわたって国土づくりや街づくりをお手伝いさせて頂いた企業の責任として、これまで培ってきました技術に、新しい時代に向けて開発してきました技術を融合させて、企業者やエンドユーザーの方々のニーズにお応えするだけでなく、さらに、発展させたソリューションを提供させて頂こうと考えております。昨年には保有技術の総合サイトとして「TOBI-TECH」(<http://www.tobi-tech.com>)を開設し、トビシマの技術に気軽にアクセスいただけるようにしました。造る時代からうまく活用する時代へ軸足を移し、これまでお手伝いさせて頂いた構造物はもちろんのこと、「防災のトビシマ」として、皆さま方のさまざまな不安や問題、課題を解決し、安心して生活できる社会基盤の整備に貢献できるよう、全社一丸となって邁進する所存であります。

さて、「とびしま技報」は発刊以来53号を重ね、これまで飛鳥建設で取り組んで参りました技術開発・研究開発の成果や、様々な課題を解決してきた施工技術の一端を紹介させて頂きました。その間、建築部門と土木部門の技術を分けて、お互いが切磋琢磨し、競い合い、共同しながら、技術開発に取り組んで参りました。しかし、近年の社会構造の変化の中で、技術そのものも大きな変化を遂げ、従来の枠では捉えられない技術が多く出現するようになってきております。こうした時代的背景を勘案し、対処するために、このたび、土木と建築の分類の垣根を外し、建設技術として総合的に紹介させて頂くことにしました。

当面、少し分野が広がり、読みにくい部分も目に付くとは思いますが、少しでも早く、建設技術として統合して良かったと評価して頂けるように努力する所存です。新しくなった「とびしま技報」をご高覧頂き、ご意見やご批判をいただけましたら、職員一同、この上ない幸せであります。

末尾になりますが、今まで同様に、トビシマへのご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

2004年3月

技術研究所長

近久博志